

令和 7 年度 仙台 BOSAI-TECH イノベーション創出促進事業  
自治体提供課題詳細

タイトル	災害廃棄物の発生地点と量の把握
提供自治体名	宮城県仙台市
掲載期限	令和 7 年 8 月 29 日まで

1. 解決したい課題の背景

- ・ 大規模災害発生時の復旧・復興には、災害廃棄物の収集・処理の速やかな完了が必要であるが、発生場所・量によって人的・物的資源の投入量が変わる。
- ・ 令和 5 年の秋田豪雨（水害）においては大規模な内水氾濫が起きたが、被災自治体において発生場所・量が把握できておらず、支援に入った本市応援部隊も片づけごみの収集に苦慮した。
- ・ 多くの自治体において、災害廃棄物は市町村等が指定した仮置場への持込（自己搬入）が基本であるが、当該内容で広報した場合においても、災害発生直後から、既存のごみ集積所や道路、空き地等に片づけごみが排出される（勝手仮置場：住民が勝手に持ち寄るごみ置場）ことが想定される。
- ・ 「『ごみ』が『ごみ』を呼ぶ」ことを防ぐために、勝手仮置場の早期収集撤去が必要であるが、どこにつくられたのかの把握は、通報や市職員の人海戦術によるところが大きい。
- ・ 災害の規模が大規模になる（被災地域が広がる）ほど、被災自治体や近隣自治体での対応が困難になるため、他の地域の自治体や事業者の応援活動が必要となり、土地勘のない人手による効率的収集ルートの構築が求められる。

2. 実現したいこと

- ・ 災害発生時に災害廃棄物の発生場所・量を把握し、災害廃棄物排出エリアを早期に特定する。
  - ・ 災害時に発生する勝手仮置場の位置を早期に把握する。
- （以下は、実現できると望ましい）
- ・ 災害廃棄物発生量推計の自動化・精緻化

- ・ 片づけごみ収集ルートの作成
3. 想定している技術（こだわらない場合はその旨を記載）
    - ・ 画像処理（認識を含む）、位置情報、衛星写真処理、集計フォーマット自動入力等が想定されるが、特にこだわるものはない。
  4. 希望する実証時期・実証場所（現時点の想定）
    - ・ 令和 8 年 1 月までの実証を希望する。
  5. その他制約事項・補足事項（関連ホームページ等）
    - ・ 災害の種類や規模により、排出される片づけごみの種類、量が異なると想定されるため、その前提で実証可能な提案に限る。
    - ・ 通常の家ごみ収集ルートのデジタル化については別途取り組んでおり、当該データと今回の実証事業で利用見込みの立った技術を掛け合わせて、最適解を求めることも視野に入れている。